(129)

正定城攻撃

昭和十二年十月八日の正定城攻撃は、当時の日本砲兵の精鋭を集め、まるで特別砲兵隊演習であった。すなわち續續出動の指揮する氣球隊、岡田砲兵大尉の指揮する野戦砲24門（中隊二個）、九六式十五糎榴弾砲（八門）、九六式十五加一九隊（八門）それに九六式十五糎一大隊（八門）が、城壁破壊を競った。九六式十五糎榴弾砲は三門あったが、遺憾なくその威力を発揮した。24糎榴弾砲の城壁の南隅角部を狙い、中に伝うれていたトーチカのコンクリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

トト室を掘り出してしまったゝ次のつき成力である。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭和十二年十月正定ニ
向ヒ南下前進スル九三
式十糧ち隊ノ支隊砲
ヤ二大隊ノ

1530
1531

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭和十二年十月正定ニ
向ヒ南下前進スル支
那軍ヲ撃滅シ
第二大隊ノ支援ヲ
ヤ二大隊ノ

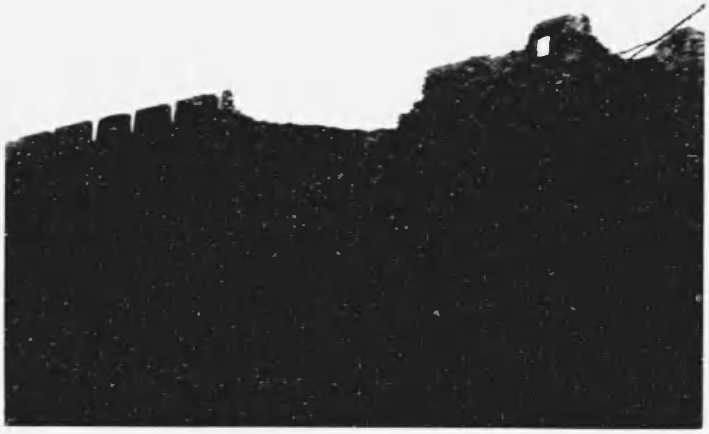
1530
1531

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

支隊砲第三中隊ハ
九六式十五糎榴の破壊射撃
によつて当時城正面城
壁の主要部位（別冊第二次破壊に
第一分隊だけ射向が
右にそれ
ていたが、偶然に砲の
精度と威力を示す明示
した。

1532
1533

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



支那北方ニ中国人
たちの抗日の反感が
いよいよ高まり下関
壁のレンガ塀、別世界ニ突破ス

第一分隊ハ右ニ
いたが、傷病者ハ
橋度と成ったと
ことを明示

1532
1533

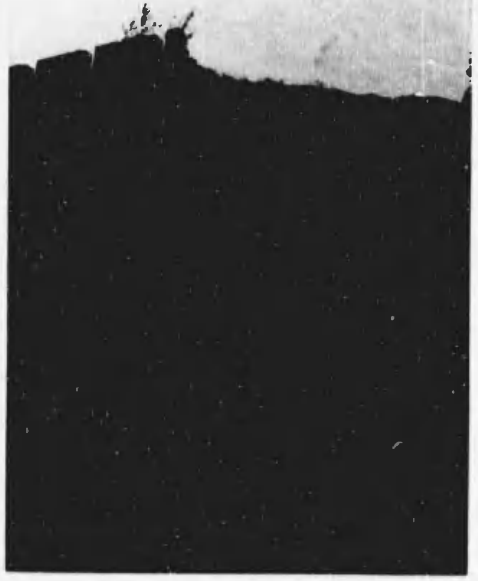
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0

1534

261

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

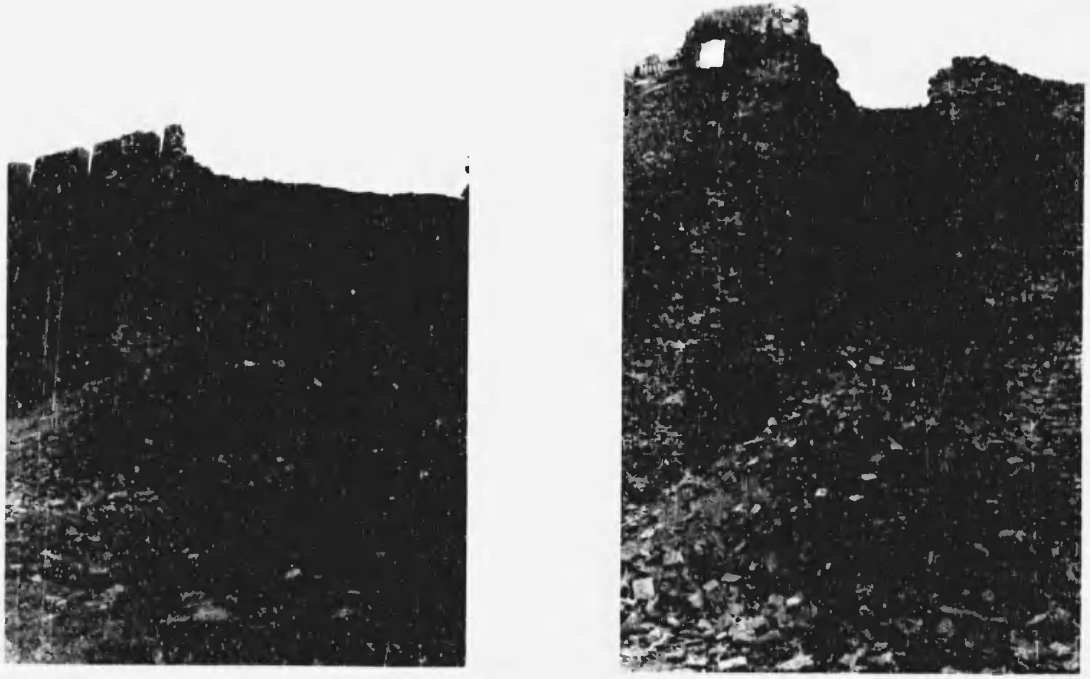


前写真の暗渠路を
辿って見る

1535
1536

51

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



1535
1536

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

1537

261

261

52

前写真の幸聲路
を辿くで ヤる

1538
1539

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

1538
1539

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

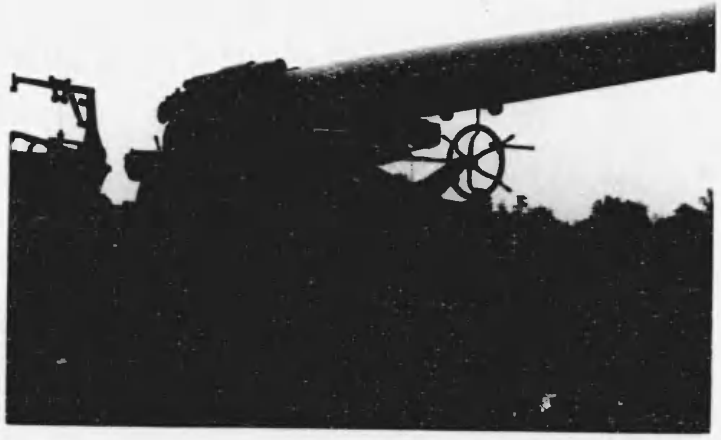
PERSONAL

2961

正

1540

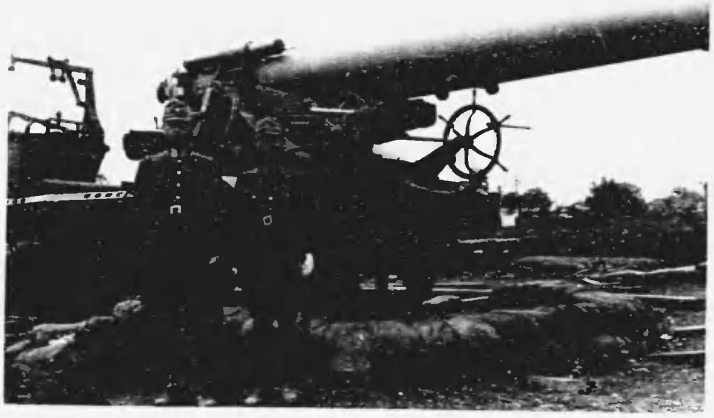
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



正定城に於ける戰車準備中の
七輪式24糎榴中隊

1541 砲車小隊長 辻田中尉と訪れた大格大尉
1542

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



1541 [illegible]
1542 [illegible]

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

261

261

1543

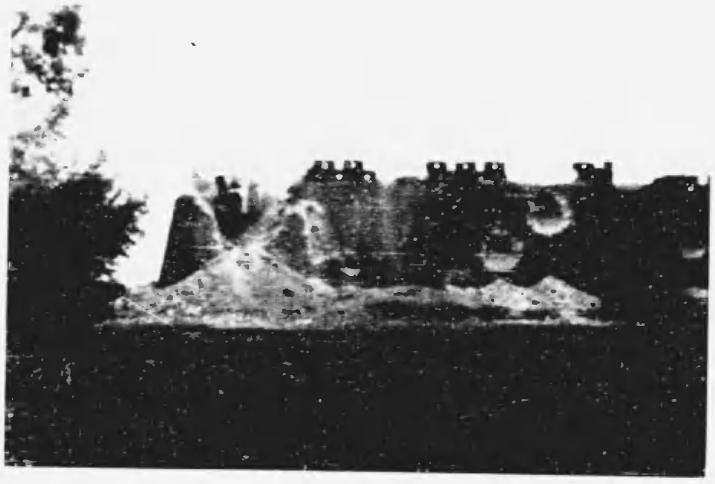
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

振り出されたコンクリート製トーチカ

正定城壁に対して砲輪24個
の作った射撃路

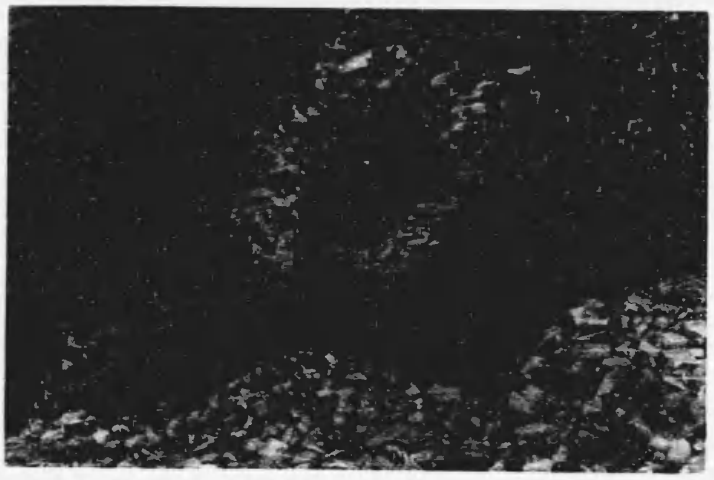
1544
1545

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



1544
1545

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

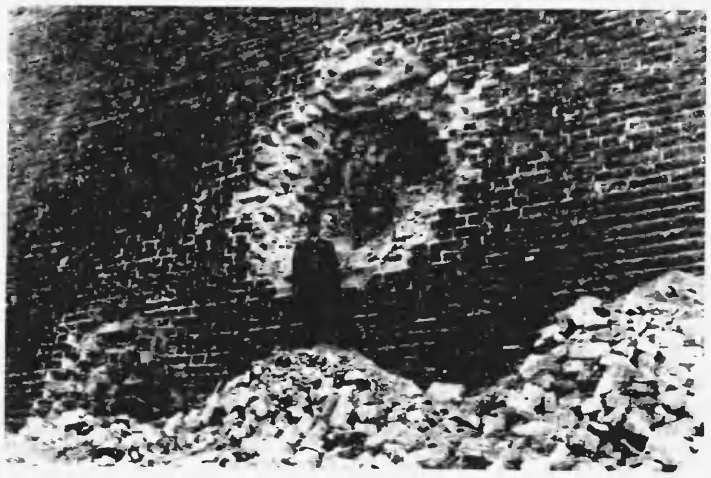


巷輪24猫の偉大な
爆痕（前写真の城壁を出しでみる）
下方の人物は大橋大尉

10×20

1546
1547

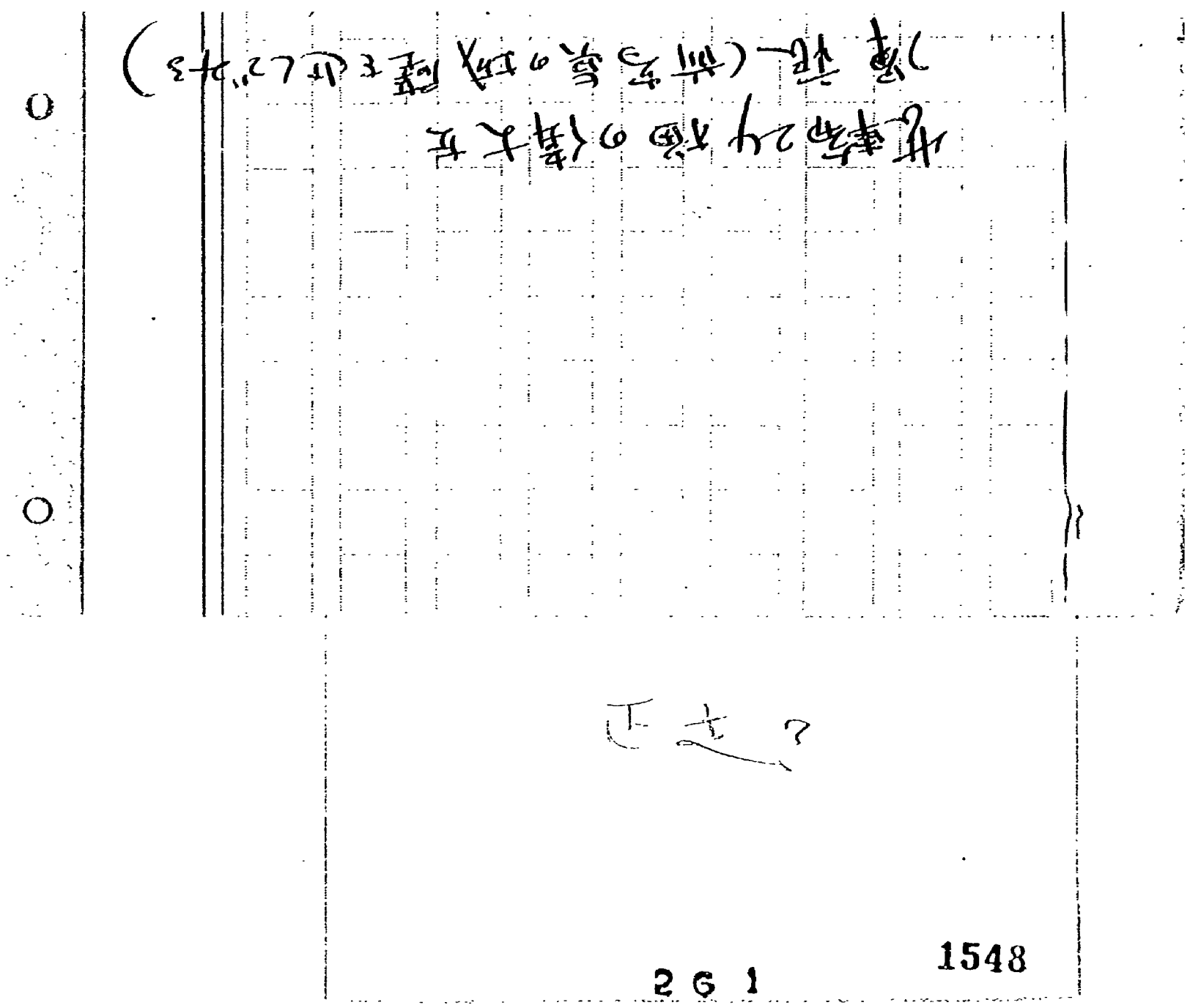
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



世輪24猫の偉大な
爆撃（前写真の城壁を壊しかける）
下方の人物は大佐大尉

1546
1547

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

別冊

正庶城壁ニ対する破壊射撃ニ関する調査

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

太原攻撃（昭和十二年十一月八日）

大同より太原に向って南下した板垣中将の率いる第五師団が竹口鎮で苦戦しているのを支援せよとの命を受けて、我が十五捕大隊は正定より反転し、汽車輸送により大同に至り、真直ぐに太道を、牽引車を走らせて南下した。竹口鎮についたのは十一月三日の夜明け日で、奇しくもこの日敵は退却を開始した。十五捕大隊は竹口鎮の峠道を扼する敵に歓喜の吹わせて撃破したけで、大した射撃もこない

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

（2）

で、一等太原城北側に迫った。

昭和十二年十一月八日の太原城攻撃においても、まず問題になったのは城壁の破壊であった。そこで例によって九六式十五糎は絶大な威力を発揮した。

特記すべきことは、山西閻錫山が威容を誇って建設し、当時敵の戦斗司令所と砲兵陣地として利用していた山西省政府庁舎の中央に屹立していた高塔の破壊射撃である。この塔は太原城の中央に聳えていてよく

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

見えたが、その時下部三台の一は城壁内に
隠されて仕方がわからない。丁度気球を射
撃するようなもので、弾着によって左右遠近
を修正することができなくて、射撃技術上最
も危険なものであった。しかもこの射撃は成
功 紫江撃開始前の一時間半、彼我息をつめて
眺めあっている時、板垣征四郎師団長以下師
団全員の見守る（敵もちろん）中で、中
隊長を命
ぜられたわけである。射撃中隊長は那須与一
大佐39期）は那須与一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

のような気持ちで神に祈り、発射号令をかけたところ、中隊全員のいのちをこめた弾は抵抗は九六式十五糎で、中隊全員のいのちをこめた初弾はピタリと塔に指向され、三発目で塔の東面正面に命中し、床儀砲と中室に備えたる高塔の上三分の一は一瞬にして木っぱ微塵となし、なくなってしまった。破壊隊は師団長直々の賞詞をいただき、大いに面目を施すとともに、全軍の士気を鼓舞したるものと思っている。

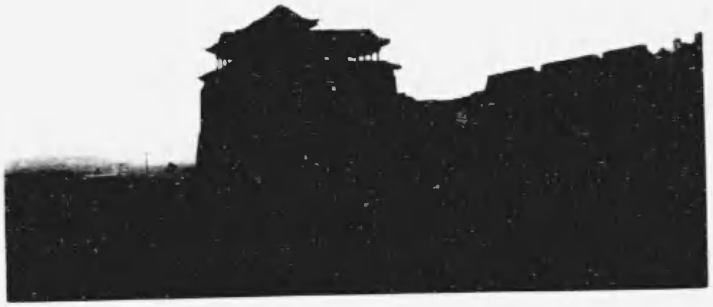
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

大原城東北角の櫓と九六式十五糎榴弾砲（射撃の）

十一月七日夕暮の冷気を退、襲される目的で制圧射撃を行なったが、この櫓に砲撃を打ちこむと無数の窓が一瞬電灯をつけたように明るくなり、薄暮迫った中で、美しい情景をみせた。

1554
1555

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



1554
1555

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

19

左文

1556

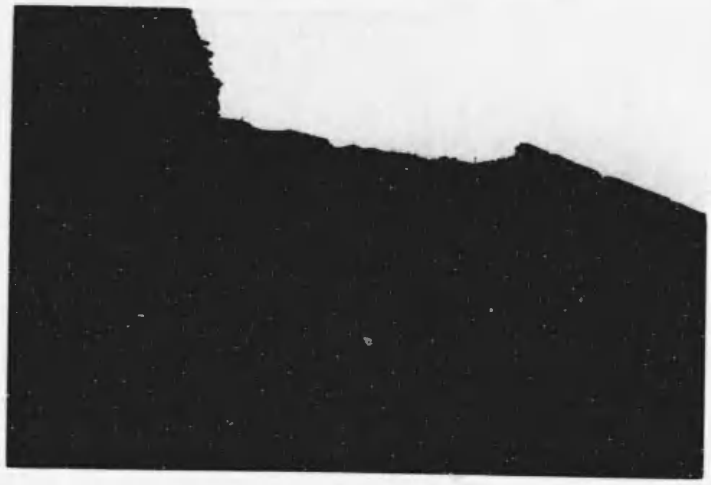
261

左文

1 9 2

261

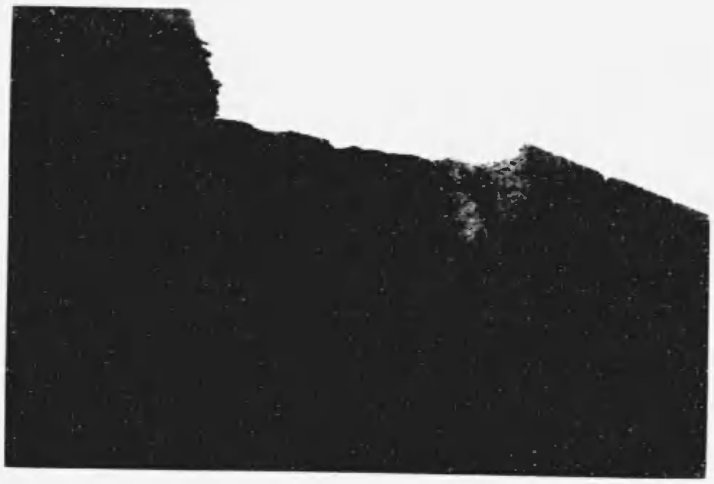
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

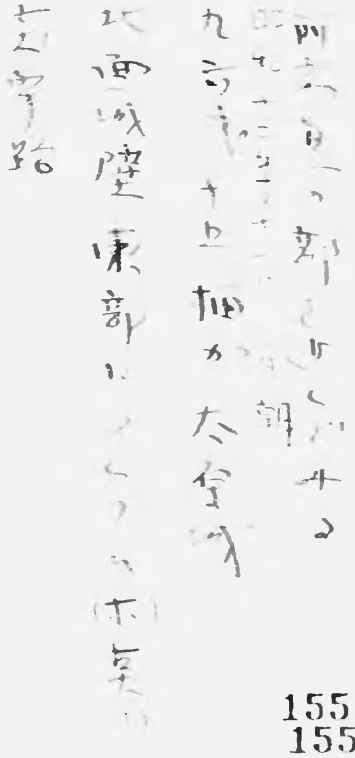


前写真の部を近くでみる
昭和十二年十一月八日朝
九六式十五糎加太砲城
北面城壁 東部につくつた(本)真の
支那路

1557
1558

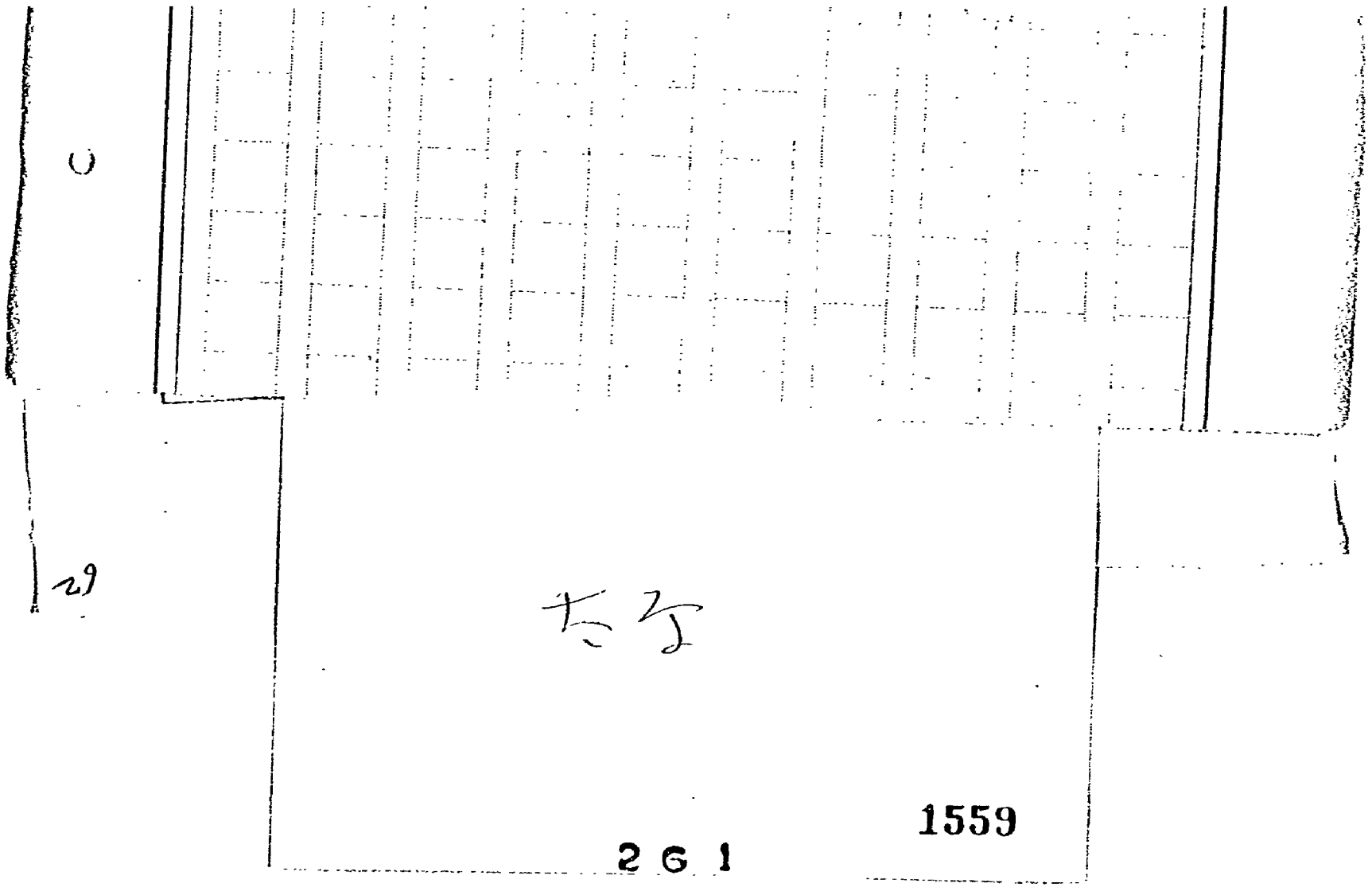
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp





1557
1558

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



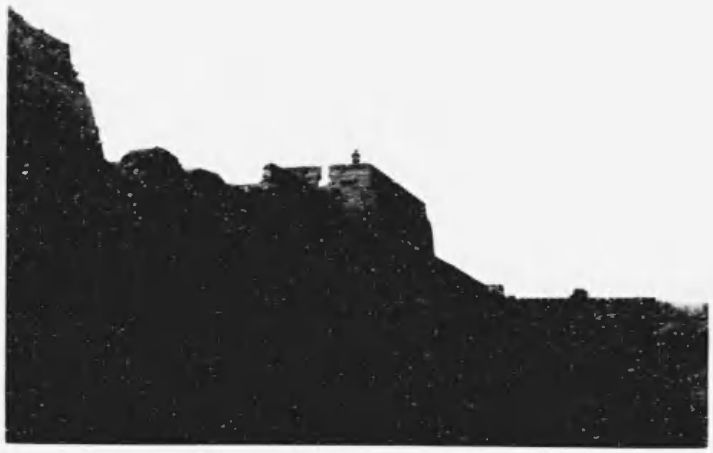
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

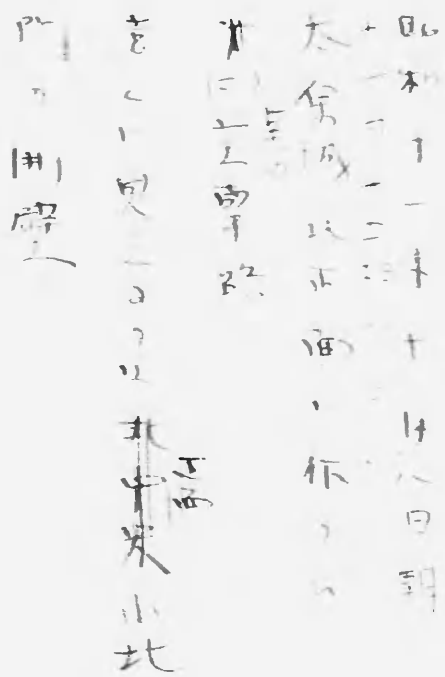
昭和十二年十一月八日朝
九六式十五糎榴弾砲隊が
太原城北正面に作つた
(美の)
前に主要路
遠くに見えるのは 北中尉 小北
門の圓壁

10×20

1560
1561

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp





1560
1561

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

1562

261

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

64

別冊

太原城城壁破壊射撃ニ関スル調査

10×20

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

（1）

台兒莊附近の戰斗（昭和十三年三月一四月）

台兒莊附近の戰斗は第十師團の左追擊隊一大隊の台兒莊部落の攻擊に端をかういた。敵軍はこれを臨沂の前の一後卫陣地と思つていたが、實はこれは徐州付近の敵の主抵抗陣地だつた。だから、思わぬ苦戰をした。

支那駐屯砂吉連隊第二大隊は第十師團に所屬されていたが、最初は攻撃奪利中尉の指揮する一中隊（二門）を先遣して左追擊隊に協力しつゝ主力をもつて奮戰した。

10×20

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(2)

攻撃中隊の戦手詳報は別冊のとおりである

10×20

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

×3

台兒莊の戦いにおける砲兵

台兒莊の戦いを砲兵的にみれば、支那軍のライン メタル式十五糎に、日本軍の全砲兵が翻弄された記録である。

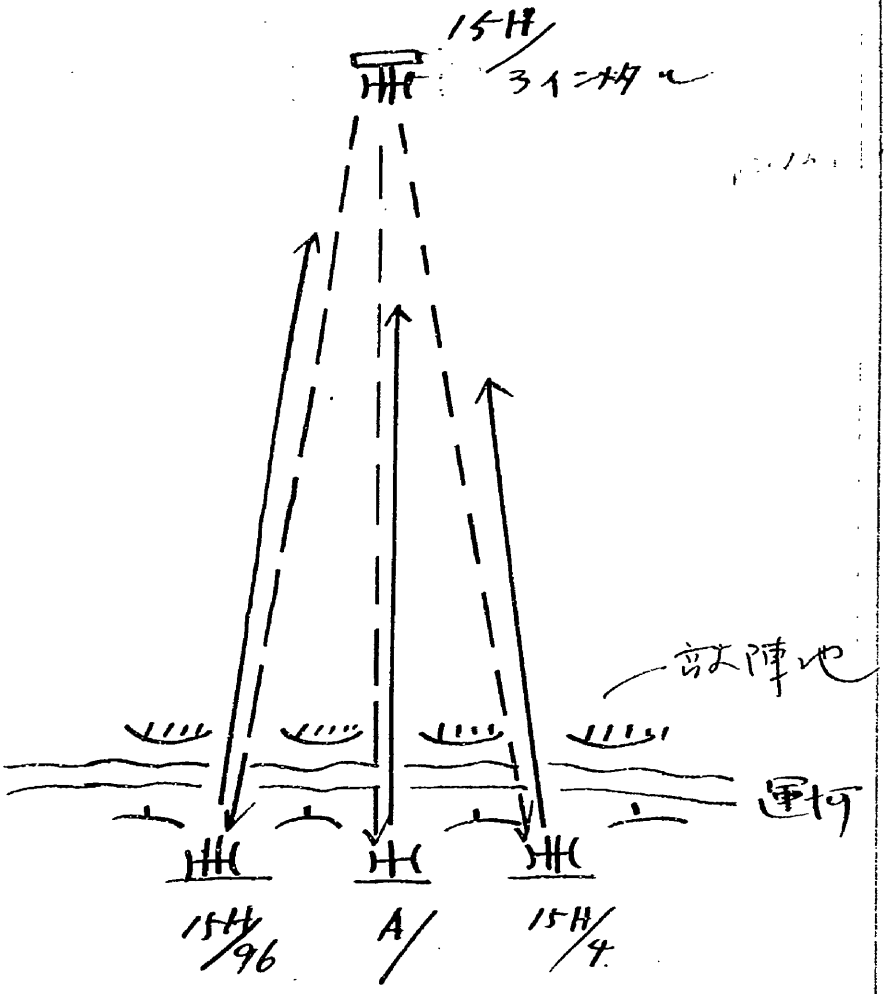
従来の支那の戦手では、日本軍は支兵は敵の迫撃砲には悩まされたが、敵の砲兵の抗戦を受けたことはなかった。手にあまるような砲撃を受けたことはなかった。しかし徐州の前哨戦が始まると、始めて手応えのある敵砲兵に遭遇した。それは津浦本線に沿う韓莊付近の戦

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(21)

場に現はした列車砲と、台兒莊に出てきたラインメタル（ドイツ製）十五糎であるっと共に日本の砲兵より射程が長いのが抜い難くありつた。列車砲の方はわが陣地を推進することにより撃破したが、ラインメタルの方は（極端に表現してあるわ）手にあまつた。彼の国の上お坊兵備をとりたかつたのであるっには手こずつた。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

86

当時の事情を誇張して画けば図のようになる。すなわち我砲兵中最大射程をもつ九六式十五糎加農砲は歩兵より（軍行より前えはあられない）まで陣地を推進しても、敵の砲兵陣地までは届かない。すなわち敵砲兵は絶対安全な位置にあって悠々狙いうちをしてくる。手の施しようのない敵から攻められるということほど士気を沮喪するものはない。しかも敵は我が砲兵中発射したものだけに射弾を集中してくる。したがってついには我砲兵中

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

（次）

進んで射撃するものなく、彼が二門のラインメタルは我が全砲兵（野砲一大隊、四年十五式榴一大隊、九六式十五榴一中隊）が完全に制圧されるという奇現象を呈してしまった。

徐州会戦中我砲兵隊はラインメタルを目の仇にして追い求めたがついに捕捉できず（敵は退却するや、まづこの虎の子砲兵を逃がすのを例とした）、小出たび射撃をかわしたのは漢口作戦である。このとき支那歴史軍主力は、本間中将の下に新編された第十七師団

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

となり、支那駐屯砲兵連隊は山砲兵第二十七連隊（甲）山砲二大隊、九江式十五糎一大隊に成長して、九江から楊子江南岸一帯を武昌南方地区に突進していた。この方面は標高千米内外の山地帯で、十五糎と山砲の組合せの妙を発揮する最適の地形で、連隊は見る存分威力を発揮することができた。しかしここでまたハッタリ癖をあらわした。山砲のは例のラインメタルである。山かげの完全な敵陣地から、峡谷を通ずる一本道の直路を縦射してくるのに、味方兵はずいぶ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

人怪され、トラックが来ると怖れられたの
兵庫の場合と異り、今度は射程の不足は陣地
の推進によって補うことができるので、必死
に追いつめて、敵が十分之のある痛撃を喰
わせたが、ついにこれを鹵獲するはいたら
なかった。漢口作戦は我々にとっては、ライ
ンメタル追撃作戦であった。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

黄河沱濫より脱出する

昭和十三年五月の徐州会戦にひきつづき、十六師団一師団長中島今朝吾中将は隴海線南側地区を鄭州南方に妄進し、今一息で京漢線敵遮断というところまで来つつあったところで、敵の黄河決潰に遭遇したことを知る。

とにかく気味の悪い水である。全部泥水音が

しないのに日が暮れると南京の土間はかつ何となく濁って臭くなる。気にもとめないで寝ておきると、朝食の時は土間に一センチぐらい水

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

かたまっている。そこで一時間に五ミリくらい、いわりいわりと氷が上って、一晩に十センチ、確実に攻めよせてくる。外を考てみると昨日までの大平原が、此平線の果てまで見渡す限り蔓の大海原であるに違っている。人間や馬はもとより高い竹を求めて逃げまわるか、牛や馬はむおあきらめて動とおとしない。

六月

朝鮮には撤退命令が下った。従来部隊は勝手に撤退地域をバレヤバレ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

六月二十一日、撤退の師団命令が来、古隊は六月二十二日、新左口でき岳左黄河（中六百メートル）深さ三メートル流速一、五メートル）を晝夜連続の三十六時間かかって門橋で渡つたが、それからが大へんである。徳安部隊は勝のところまで水かゝる氾濫地域をハシヤハシ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ヤ寸き始めたが、我々重砲部隊は困ってしまった。徒涉するには水が深すぎ、舟を動かすには水が浅すぎるのである。見渡すかぎり水ばかりの竹を、我々は泥沼に足を通せる水深を必死で探し求めて難行を重ねつつけ、[illegible]中隊[illegible]の[illegible]に[illegible]と[illegible]の思いで蘭封に上陸した。

（二十五日後の七月七日に[illegible]？）

こして、かつてあれほど嫌いだった砂ほこりを頭から被ったときには隨喜の涙がでた。我々はついに足で敵と全自動車を無事に持ち去ることに成功した。しかしこのかわりに

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ユレる薗にとりつかれるという大変なことになってしまった。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭和十三年七月
黄河氾濫地帯ヲ撤退
する輜重車輜部隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭和十三年七月
黄河氾濫心帯ヲ渡ル
輜重車輜部隊

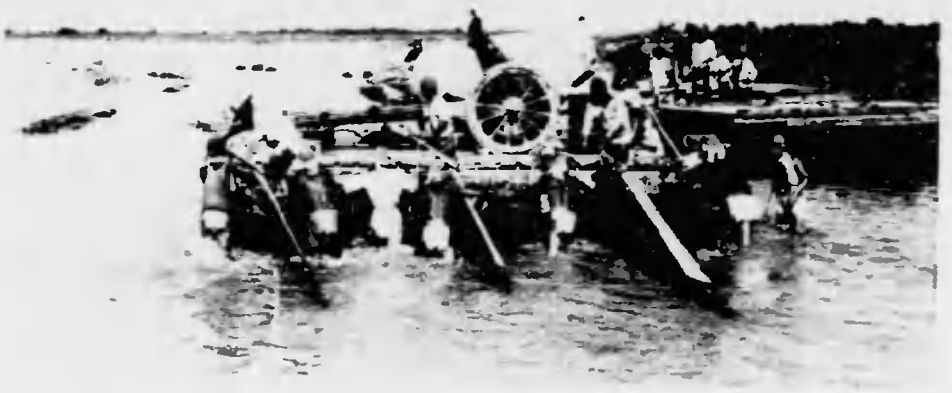
1578-2　1578

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭和十三年七月
黄河沿岸地帶を門橋
で突破する九六式
土橋部隊

1579-2 1579

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



昭和十三年七月
黄河沿岸地帶ヲ渡橋
シ突破スル九六式
工兵部隊

1579-2 1579

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp